

地球連句を楽しもう 目次

序

第一部 国際連句から地球連句へ

一 地球連句の始まり

地球連句の曙 地球は青かった
人類は歌が好き わたしの
地球連句の第一歩

二 新年を祝い連句で乾杯

ローマから贈られた「シャンパン」 初夢、世界に架ける虹の橋
サンタフェの空、初日待つ友 ケノーシヤから新年の挨拶

三 米英加の詩人佐渡島へ

米英加の詩人、イルカに迎えられ佐渡へ 朝風呂、日本海に昇る朝日 晩餐会、ビュティフルワンダフル 夜、レッツゴー・レンク 佐渡・米英加俳句大会

国際連句、恋の句競演

四 佐渡長谷寺に献額

日本・アメリカの八作品 「レモネードの香」と「暑き教室」
ルーマニア、コドレスク氏来るイオンコドレスク氏、佐渡へ

酒蔵見学、順徳上皇の御陵 コドレスク氏歓迎連句大会 荒貴

彗星発見

アメリカひとり旅
サンフランシスコのハブニング、自立の試練 「この樹には神が宿っています」 ヒッピー発祥のパークレー校、風は爽やかに

トライ・レンク モントレー

砂丘の会館で アシルマー、禅式の開会式 摩天楼の半月、旧友と再会 世界の知恵、ハーバード大学訪問 芭蕉の最期の心境

ケネディ公園 ギリシャ会館のアイコン文化、ボストン

中国詩人との出会い
宴席で受けた挨拶句、許耀明氏 銘酒「天の川」に酔う、連句弾

七

八

む 日本語中国語翻訳の苦心

許氏、天の川連句会出席

中国、北京大学研究会設立大会

に出席

北京、悠久の歴史と破壊と再建と

天安門広場、文化大革命の嵐

四大学で連句の講演 美味しい

中国料理、連句の詩作 北京大

学中日詩歌比較研究会発足、学者

文人詩人集う

九 地球連句シンポジウム

世界最初の地球連句シンポジウム

開催 地球連句の定義 地球

連句の活動と作品 地球連句シ

ンポジウム 地球連句東京宣言

連句の二十一世紀

第二部 ファクス連句から地球連句へ

一 アメリカのレンク事情(北米連句

ツアー)

目的 過去の経緯 準備

訪問地 カーメル サンフランシ

スコ サンタフェ ミルウォー

キー ニューヨーク その他

結び

二 世界初のファクス連句

於日本―外国 於日本人―外国

人(合作)

三 ファクス連句と国際連句コロキアム

国際連句の歴史と現状 第二回

天の川を見る会とファクス連句

国際連句コロキアム

四 第四回天の川を見る会

「あとがき」より

しぐれる空。猿が欲しそうにする猿。

「奥の細道」は人生の旅。

人生は天地人との出会いである。

最近約十年の間、わたしは、これまでの日本語・万葉集・芭蕉の研究のほかに、外国の人たちと一緒に連句をつくることを行なってきた。わが国の連句は、日本書紀にある日本武尊と火ともしの翁との問答歌(筑波問答)という)から始まる。この問答歌はやがて、万葉集の問答歌や旋頭歌、中世の連歌へと発展し、さらに近世の俳諧(連句)、そして現代の連句へと継承されてきた。

外国ではルーマニア、アイルランド、中国をはじめとする国々に、古く問答歌があり、現在もこれを継承している国があることがわかってきた。

わたしはこれまでの経験から、「日本独特の連句を外国の皆さんに広めたい」と表現してきたが、今は「あなたがたの国にある問答歌のころを基本とする連句を、一緒に(共同で)作ってみたいと思います。」と言うようにしている。

なるべく上から下へ教えるという姿勢ではなく、対等の精神でおこなうように心掛けています。

わたしの原点は、天の川連句会の「天の川平和宣言」と、それを敷衍した「地球連句東京宣言」に集約されている。連句の有する自然尊重の理念と、友愛連帯のころである。(後略)

著者略歴 福田眞久(ふくだ・まさひさ)号・真空

昭和十年(一九三五)、新潟県生まれ。国士館大学文学部教授、天の川連句会主宰、国語学会会員、解釈学会会員、俳文学学会会員、連句協会会員、アメリカ俳句協会会員、地球連句を主唱。

著書「言語本質観の研究」「芭蕉の自我と救い」「松尾芭蕉論―晩年の世界―」「芭蕉のころ」「芭蕉、世界へ」句集「天の川」他多数。

「連句文芸賞」へのおさそい

ドシンドシわいわいご応募を

例えば、茶をすするといふ日常の「こまが「茶道」へと高められたように、「連句」は人と人との言葉によるコミュニケーションを文芸にまで深められた共同制作の詩です。人が集まり言葉を発表するとき、それを「座の文芸」と言い、手紙や葉書、ファクスや電子メールでコミュニケーションするとき、それは「文音」「郵便的」「電韻」連句なのです。

「俳諧の連歌」(連句)をルーツに川柳と俳句が生まれ、たくさんの方の川柳人、俳人らが五七五を楽しんでいます。それで連句の方は瘦せ細ってしまったようですが、そうではありませぬ。いま平成の世に、川柳や俳句、短歌や自由詩のレベルを連句へと還流させる「俳諧ルネッサンス」が文芸史の課題になったのです。「連句文芸賞」は「俳諧」の伝統を受け継ぐ、新しい共同制作の詩を求めています。あなたのグループ作品を世に問うチャンス。「わいわい連句遊び」連句文芸賞への誘い」を読まれて、連句作品をドシンドシわいわいご応募ください。

平成連句競詠会

応募要項は当社刊の「わいわい連句遊び」連句文芸賞への誘い」をご参照ください。

東京文献センター出版目録(本体価格)

望岳窓俳漫筆	高木 蒼梧	一七二五円
「超」連句入門	浅沼 瑛	一、五〇〇円
わいわい連句遊び	平成連句競詠会 代表二上 貴夫編	二、〇〇〇円
別所真紀子俳諧評論集	別所 真紀子	一、八〇〇円
妻科の家	田中 冬二	一、七二五円
ほんわか奥多摩四季だより	花森 俊一	一、六〇〇円
古きを訪ねる銚子の絵はがき	大里 健編著	一、五二四円
銚子半島の歳事風俗誌	大木 衛	一、五二四円
岬へ行く電車	白土 貞夫	一、八〇〇円
銚子と文学	岡見 晨明編	二、〇〇〇円
続・銚子の絵はがき	大里 健編著	近刊
尹世霖現代中国朗誦詩の世界	金子 總子編	一、九〇五円
「西藏研究」分類目録	熊切 武彦編	二、〇〇〇円
真空管半代記	藤室 衛	一、八〇〇円
趣味馬鹿半代記	酒井 徳男	一、四二九円
俳句半代記	八幡 城太郎	一、四二九円
刀剣半代記	新市郎	一、四二九円
実用そば辞典	植原 路郎	七六円
古写真、プロマイド、カードで見る大相撲	景山 忠弘	一、八〇〇円

平成十二年に東京・国士館大学で世界最初の「地球連句シンポジウム」が開催された。その主唱者である福田眞久氏と地球規模の連句を楽しむための書。二十七作品が織り出す地球人類の曼陀羅。

地球連句を楽しむもう

福田眞久 著

本体 1,800円 (税別)

四六判

東京文献センター

発行・発売 東京文献センター 福田眞久 著
地球連句を楽しむもう
本体 一、八〇〇円(税別) ISBN4-925187-24-4

帳合印		冊	
注文		お名前	
住所	ご住所	お名前	
電話番号	電話番号		

東京文献センター

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-16-2-404
電話・FAX 03-3299-3857 振替口座 00120-7-415043
http://www.tbs.gol.com E-mail tbs@gol.com